

科目名	観光福祉論A Tourism Welfare A						
科目担当者	墨 昌芳 SUMI Masayoshi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(1)(4)
授業の概要	観光は文化・言語・国籍の違い、老若男女といった差異、あるいは障がい者と健常者で区別されることなく享受できることが求められています。わが国そして宮崎県では高齢社会を迎えており、観光の場面においてバリアフリー化、ユニバーサルデザインの推進が求められています。本講義では、障がい者や高齢者への対応はもちろんのこと、外国人を含めた観光客への配慮も含めた、その現状と取り組み、新たな課題について学びます。講義スタイルは、板書およびスライドを利用したプレゼンテーションで、新聞やTV番組、あるいは雑誌やパンフレットの記事なども活用しながら解説していきます。また、ユニバーサルツーリズムに関わる様々な資料を示しながら、日本及び世界の取組みを紹介していきます。						
授業の到達目標	①観光福祉の基本概念を理解することができる。 ②観光業界におけるユニバーサルツーリズムに向けた具体的取組を理解することができる。 ③観光立国とバリアフリーの政策を理解することができる。						
授業計画・内容	1	ガイダンス：講義の概要、観光福祉の基本概念・意義とその歴史的動向					
	2	高齢化社会における観光の重要性、観光福祉と関連分野					
	3	海外の観光福祉の歩み					
	4	日本の観光福祉の歩み					
	5	バリアフリーとユニバーサルデザイン (1)：類似点と相違点					
	6	バリアフリーとユニバーサルデザイン (2)：具体的取組み事例					
	7	ノーマライゼーションとは					
	8	国際障害者年とボランティア					
	9	障がい者・旅行会社・宿泊施設の取組み					
	10	国、観光地、自治体の取組み～沖縄県・岐阜県高山市の取組み事例から～					
	11	バリアフリー法の制定と観光立国					
	12	ユニバーサルツーリズムとは					
	13	ユニバーサルツーリズムに向けた旅行会社・観光地の取組み					
	14	パラリンピックに向けた取組みと課題					
	15	観光福祉における課題					
授業外学修 (事前学修)							
授業外学修 (事後学修)	授業内容について分からない点などを復習し、不明点を調べておく（毎週2時間程度、合計30時間） 課題を作成する（30時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法				評価比率		到達目標との対応
	定期試験				50%		①、②、③
	課題の提出				30%		①、②、③
授業中の小テスト				20%		①、②、③	
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に使用しない。教材を必要に応じて（ほぼ毎週）配布する。また、必要に応じて新聞や雑誌の記事、あるいは論文等を配布する。						
参考文献	川村匡由・立岡浩『観光福祉論』ミネルヴァ書房。 国土交通省観光庁『令和5年版 観光白書』日経印刷。 （上記の観光白書は、国土交通省のホームページ上から全文無料で入手可能） 山下晋司『観光学キーワード』有斐閣。						
その他	くどのような学生の受講が望ましいのか> 観光と福祉の分野に興味がある学生 観光や福祉の分野で就職を考えている学生						